

「新型コロナウイルスによる団体活動への影響」ヒアリング報告

令和2年2月ごろから、国内でも新型コロナウイルスの感染拡大防止のための活動自粛等（以下コロナ禍）の動きが加速し、市民活動もその例外ではなくなりました。

リアルに人と人が集まることが制限される状況の中、一躍注目を集めたオンラインツールの活用について、プラッツ登録団体（市民活動団体）の生の声を伺い、今後のセンターの活動方針を決めていく手掛かりとするためにヒアリングを実施しました。団体の皆様のご協力に改めて御礼申し上げます。

1. 実施概要

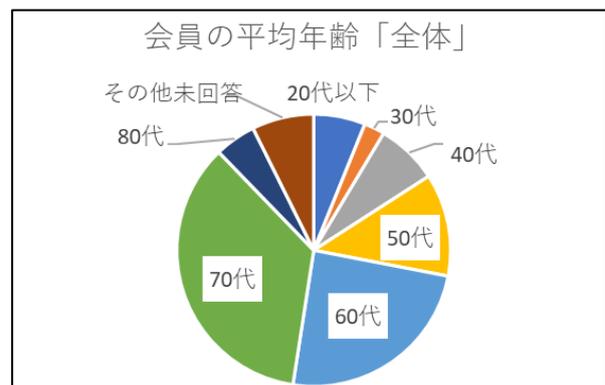
- i. 実施期間：令和2年8月1日～令和2年8月15日（15日間）
- ii. 対象：令和2年7月31日時点の市民活動登録団体（プラッツ登録団体）全395団体
※コロナ禍により団体更新期間を延長したため、未更新団体109団体を含みます
- iii. 実施方法：下記2通りにてヒアリングを実施しました
 - ・団体連絡担当者へのメール送付による専用フォーム
 - ・団体連絡担当者への郵送・返送による質問票（メールアドレスの登録が無い方）
- iv. 回収状況：メール送付及び郵送にて全85団体より回収、82団体を有効としました

	送付数	回収数	有効数	有効回収率
メール送付	346団体	57団体	57団体	16.47%
郵送	49団体	28団体	25団体	51.02%
合計	395団体	85団体	82団体	20.75%

2. 回答者属性

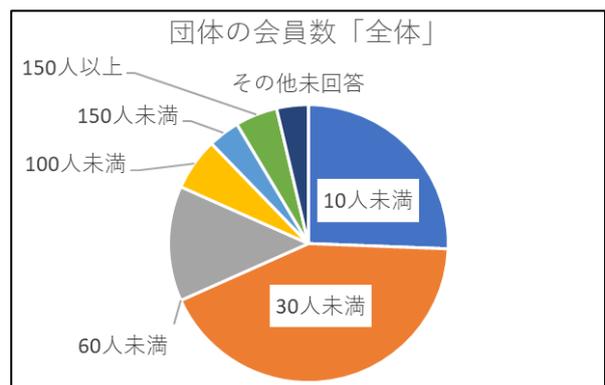
(団体の平均年齢)

	全体		インターネット		郵送	
	団体	%	団体	%	団体	%
20代以下	5	6.1%	5	8.8%	0	0.0%
30代	2	2.4%	2	3.5%	0	0.0%
40代	6	7.3%	6	10.5%	0	0.0%
50代	10	12.2%	9	15.8%	1	4.0%
60代	20	24.4%	16	28.1%	4	16.0%
70代	29	35.4%	15	26.3%	14	56.0%
80代	4	4.9%	0	0.0%	4	16.0%
その他未回答	6	7.3%	4	7.0%	2	8.0%
合計	82	100.0%	57	100.0%	25	100.0%



(団体の会員数)

	全体		インターネット		郵送	
	団体	%	団体	%	団体	%
10人未満	21	25.6%	15	26.3%	6	24.0%
30人未満	35	42.7%	24	42.1%	11	44.0%
60人未満	11	13.4%	10	17.5%	1	4.0%
100人未満	5	6.1%	4	7.0%	1	4.0%
150人未満	3	3.7%	1	1.8%	2	8.0%
150人以上	4	4.9%	2	3.5%	2	8.0%
その他未回答	3	3.7%	1	1.8%	2	8.0%
合計	82	100.0%	57	100.0%	25	100.0%

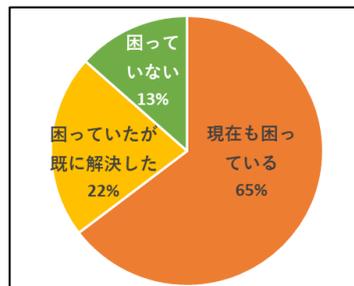


3. ヒアリング報告

(1) コロナ禍における団体活動における現在の状況について（単一選択）

「現在も困っている」と回答した団体が、53 団体（64.6%）でした。「現在も困っている」に「既に解決した」を足した、「コロナ禍で困りごとが生じた団体」は71 団体（86.6%）あり、多数のプラッツ登録団体が活動に支障をきたしていることを確認できました。

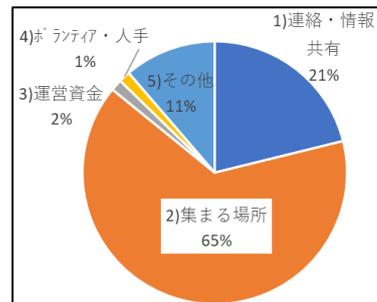
	全体		インターネット		郵送	
	団体	%	団体	%	団体	%
現在も困っている	53	64.6%	42	73.7%	11	44.0%
困っていたが既に解決した	18	22.0%	9	15.8%	9	36.0%
困っていない	11	13.4%	6	10.5%	5	20.0%
その他・未回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	82	100.0%	57	100.0%	25	100.0%



(2) 上記(1)にて、「現在も困っている」または「困っていたが既に解決した」と回答した団体が、何に困っているか（下記1から5のうち最も困っていること1つを選択）

「集まる場所に関する事」と回答した団体が最も多く46 団体（64.8%）でした。次に「会員との連絡・情報共有に関する事」が15 団体（21.1%）でした。その他の意見として、「(対面しての)会話ができない事」「地方に移動を伴う活動の自粛」などが挙げられました。

	全体		困っている		既に解決した	
	団体	%	団体	%	団体	%
1)会員との連絡・情報共有に関する事	15	21.1%	8	15.1%	7	38.9%
2)集まる場所に関する事	46	64.8%	35	66.0%	11	61.1%
3)運営する資金に関する事	1	1.4%	1	1.9%	0	0.0%
4)ボランティアなど人手に関する事	1	1.4%	1	1.9%	0	0.0%
5)その他	8	11.3%	8	15.1%	0	0.0%
未回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	71	100.0%	53	100.0%	18	100.0%



■自由記述 1) 会員との連絡・情報共有に関する事

[現在も困っている]

- ・過度の自粛で、精神的にも肉体的にも疲労気味の人が増えている
- ・通常二か月に一度の理事会開催がかなわず。理事会準備のための細かな打ち合わせの場所も借りることができず、全会員に様々な連絡をする通知を郵送すると送料がかなりの出費となる。仲間と打ち合わせができないというのが円滑な組織運営に支障をきたしている
- ・気楽に、話し合い、集会が出来ない
- ・80 人前後の会員と集合行動をとるため、活動自粛要請で例会を計画実行する事が出来ない状況です。また、理事会を実施するのも、会議室確保にも人数規制があり、苦慮しております
- ・顔を合わせての打ち合わせや作業ができない。ひとりやふたりでも打ち合わせで（プラッツの）作業のスペースが使えない
- ・年齢もあり、ZOOM のアプリを取り込むことに、不安と抵抗がある
- ・活動の再開をいつにするか、どのように活動していくかの話合いの場が持てない。市役所のコロナ対策を常に注視し、団員へ伝えるが、市役所の対策がわかりにくい

*自由記述 1) 会員との連絡・情報共有に関すること つづき

- ・以前より会合の回数も少なくし、会合への出席も自己責任で無理はしないという事になっています。高齢者も多い為欠席者には会合の内容を伝えていますが、欠席者の意見を聞くことが出来ず出席者のみでの話し合いの状況です

[困っていたが既に解決した]

- ・集まることができなくて困ったが、ZOOM でとりあえず解決した
- ・フラッツからの情報、サークルの予定を郵送で連絡（各月）している
- ・毎月スタッフ全員でのミーティングやシフトを作るのに困った。連絡帳や全員が見られるシフト表を置いて各自に記入してもらった
- ・機関紙（冊子）渡しや運営上の書類のやり取り等、会員の家を回りました
- ・メールや ZOOM を使った
- ・グループ LINE の作成・ホームページに会員専用ページを作成することで、集まらない期間中の連絡に使用した
- ・プラッツ団体スペースを利用して、写真の編集作業を会員が確認できていたが、場所が利用できないことで、作業の共有が出来なくなってしまった。現在は Teams を利用して、会員間で写真の編集工程を確認できるようになっている

■自由記述 2) 集まる場所に関すること

[現在も困っている]

➤ 日々の活動に関すること

- ・活動場所として特別養護老人ホームを使わせて頂いています。会員の平均年齢が高く、万が一のことを考えると休止せざるを得ないと考えています
- ・府中市内各所の見学等が主な活動だったので、中止せざるを得ない状況です
- ・集まって活動すること自体が、感染防止のため、自粛しています
- ・「手話」というコミュニケーションツールのため、マスクをしての学習活動は困難であり、交流を含めて3密が遵守できないため、今年度はプラッツ内外の会場も中止となりました
- ・中学生の学習支援をしています但会場が有りません。数学と英語ですが、学校がはじまりましたので、数学のみ自宅に来てもらって行っています
- ・精神障害者とその家族のために例会を開いています。一時期活動を中止しましたが、人と会えないとストレスがたまるので再開しました。活動に使っている当会の事務所が狭いので、社会的距離がとれず、飛沫防止フィルムも設置できません。不安を抱えつつ続けています

➤ 団体内の打合せに関すること

- ・少ない人数で、相談する場所がない。（プラッツの）フリースペースが使用できると良い。現在は飲食店などで行っている
- ・会議室の予約をキャンセルした。プラッツ団体活動スペースの再開を期待しています
- ・プラッツ団体活動スペースが借りられない
- ・プラッツのフリースペースが長らく使えないため、実際に会って打ち合わせをする場所を探すのが難しくなっています

*自由記述 2) 集まる場所に関すること つづき

- ・ちょっとした打ち合わせに 5 階の団体活動スペースをよく利用していました。今使えない状況では不便を感じます。また、会議室（の定員制限により、予約可能な会議室）が大きくなって費用負担が大きくなるので困っています
- ・役員の定期会合や講習会等の会場確保が難しい
- ・コロナ禍の利用条件に基づいた会場の確保、費用面においても当会の人数分の確保は難しい状況です。また様々なリスクを抱えての利用となることです
- ・プラッツ 5 階の団体活動スペースを利用可能にしてほしい
- ・5 階の団体作業コーナーを使わせていただいていたので、現在、活動場所に困っています。少人数なので、会議室を借りるほどではないので、早く元のように活動したいと思っています
- ・会場確保が、人数制限のため、全員が集まる事が出来ない
- ・運営委員会はプラッツ「団体活動スペース」を利用、定例会議は「会議室」を利用して開催してきました。会議室は定員の半数以下での利用と制限があり、該当する会議室は少なく、またプラッツは会議室の利用料金が高いので借用できません。運営委員会は無料の会場で開催してきましたので、有料の会議室で開催するようになると、会費の値上げを検討しなければなりません。当面、会議は文化センターの会議室を借用する予定ですが、引き続き予約できる保証はなく困っています

▶ イベント実施に関すること

- ・会議室等で 2 倍の定員の会場を使用しなくてはならないため費用がかかる
- ・定員制限があつてプラッツ料理室が使えない
- ・講習会を開催するにあたって、会場である会議室が使用できない
- ・公演ができない。普段の合唱練習もできない
- ・市内公共施設の収容人員が半数となった為、講座実施可能会場の選定に苦労している
- ・会員の人数に対してこれまで利用していた部屋では密になってしまうので、さらに広い会場が必要になった。コロナ感染の恐れから、外部講師を招きにくくなった
- ・ミーティングなどはオンラインで実施しているが、やはり対面で行うことの重要性はある。対面で集まることができないことで、少々の不全感は持ち続けている。また、7 月に予定していたセミナーを中止せざるを得なかった。さらに、9 月予定のセミナーも開催は不確実。オンラインでの開催を検討しているが、参加者が対応しきれぬかは不明

▶ 団体内の親睦に関すること

- ・高齢者が多い当グループは、趣味の活動のほか会話等雑談する場所がなくなりストレスが蓄積されている
- ・皆さんが集まっておしゃべりしながら、楽しく物作りが出来ない状況です。どなたも同じ条件ですから仕方ないとも言えます。落ち着くまでは LINE でグループを作っておりますので、状況＋情報＆現状をお伝えしつつ繋いでおります。ただ、皆さんが LINE を使えるわけではありませんから、情報に偏りが出てしまっているかも・・・と思いつつ過ごしています

➤ その他

- ・ 室外での体操が活動のため十分にソーシャルディスタンスはとれます。しかし、月例の会議がしづらくなった。大声で会議するわけにはいきません。従って、これも屋外になります。会員の募集も控えがちになりますね
- ・ まだ、活動そのものが、始まりの段階で、会員募集から、会員対象の講座を企画、集客して、メンバーを増やすということができていない。コロナ禍で講座として、開催できない為、年間予定も立たず、実質活動状態にない
- ・ 運動系、広い場所が必要だが、感染予防対策手順が 25 項目以上、高齢者が多いため困る

[困っていたが既に解決した]

➤ 日々の活動に関すること

- ・ 活動拠点である押立体育館の閉鎖により、活動が出来ませんでした。しかし、6 月 15 日より体育館が開放された為、感染予防対策をとりながら、今は実施することが出来ています
- ・ 活動場所の文化センターの使用制限があったこと。8 月は緩和されたので試しに開催してみますが、感染防止策をどこまでやるかが課題です
- ・ 4 月にプラッツ印刷機が使用不可能になり季刊誌発行が出来ず他の方法で発行。7 月に印刷室の閉鎖が解除され次号はスムーズに発行出来ました

➤ 団体内の打合せに関すること

- ・ 文化センター・プラッツが休館中は他の場所（公会堂等）を利用した
- ・ 大人数での打合せ、会合は中止。少人数で個別に連絡、打合せを行っている。LINE での連絡も活用した
- ・ プラッツ 5 階をミーティングに使わせて頂いていたので困りましたが、コロナ禍で誰も同じと思い、他のツールを使いコミュニケーションを取っています
- ・ 3-6 月に例年ですと委員会等予定しておりましたが、先だつての打ち合わせすらできる場所がなく、苦慮しました。オンライン会議は準備するにあたり、とりあえずではありましたができたことで、7 月の委員会開催までこぎ着けました
- ・ 費用が掛かるが、大きな会議室を借りることで解決

➤ イベント実施に関すること

- ・ 7 月開催予定だった大会を 9 月に延期したものの、東京での感染者数の増加に伴い、今年はやむなく中止しました。また、11 月末開催予定だった沖縄大会は、沖縄での感染拡大に伴い、来年に延期をした
- ・ イベントを予定していたが中止した。今後は会場を少数で使用し、他 ZOOM でも入れるようにしようと思う
- ・ オンライン行事に変更することで解決

■自由記述 3) 運営資金に関すること

[現在も困っている]

- ・協賛金、参加費等を集められない。しかし、当初準備の費用をかけてしまったことに加え、資材の保管場所代や、会議費等がかかるため、来年への繰越金が大幅に減っている。プラッツの無料のエリアが使えなくなっている上に、会議室も定員が制限されているが、元通りの費用を支払わねばならないので、ビデオ会議（の費用）や、倍のサイズの会議室費用が掛かっている

■自由記述 4) ボランティアなど人手に関すること

[現在も困っている]

- ・特別支援学校の生徒による見学や実習予定が未定になり、新しい利用者の確保が難しい状態

■自由記述 5) その他

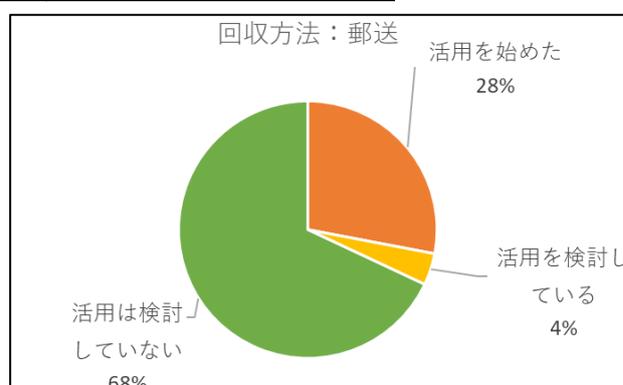
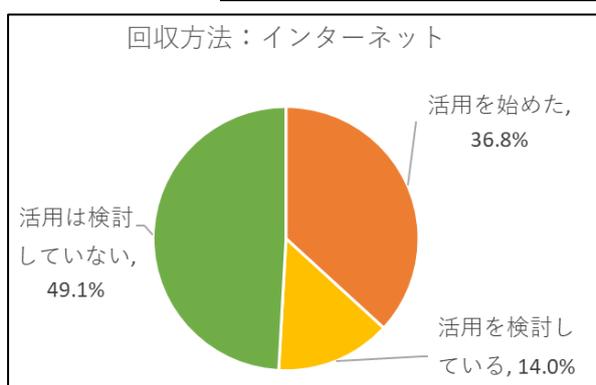
[現在も困っている]

- ・人と会い、会話ができない事が困っている。コロナがなくなる限り、他の方法がない
- ・感染リスクを下げるために直接人と会う時間を減らしています
- ・(団体活動の) ホームステイ、キャンプなどがすべてできなくなった
- ・地方に移動を伴う活動を自粛し、人が集まるイベント活動を自粛せざるを得ず、活動の幅が少し狭くなってしまっている
- ・活動内容が観光案内なので、他人との接触を避けると活動できない。従って、現在活動休止中です。10月から再開予定ですが、感染状況を見て変更するかもしれません
- ・活動が外出自粛で大幅に制限されているため
- ・月1回、教室を開いて、会員外の方々を招いて共に学び歌う活動をしていましたが、緊急事態宣言が出た後は、解除されても感染を防ぐために開催できないでいます。協働まつりの事前パフォーマンスの録画の為に、会員のみで感染対策を徹底して、8月と9月に練習をして録画しますが、その後も今まで通り活動できるかどうか不透明です
- ・公演の人数を少なくする必要に迫られて、集客が少なくなった

(3) コロナ禍に際して、団体活動における新たなオンラインツールの活用を検討したか否かについて（単一選択）

活用を「検討していない」と回答する方が、活用を「始めた」「検討している」を上回る 54.9% となりました。「検討していない」団体の割合は、インターネットに比べ郵送の方が高くなり、プラットフォームへのメールアドレスの登録有無によって差異が明らかになりました。

	全体		インターネット		郵送	
	団体	%	団体	%	団体	%
活用を始めた	28	34.1%	21	36.8%	7	28.0%
活用を検討している	9	11.0%	8	14.0%	1	4.0%
活用は検討していない	45	54.9%	28	49.1%	17	68.0%
その他・未回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	82	100.0%	57	100.0%	25	100.0%



■自由記述 新たなツールの「活用をはじめた」

- ・感染予防対策として、LINE を使っていますが、高齢者の会員全員とはいきませんので、役員のみで活用している現状です。平均年齢 79.6 歳でツールを使いこなせないのが悩みです
- ・LINE を活用して打合せ・連絡を行っている。今までライン利用してなかったメンバーにも教えて、小グループの密な情報共有・連絡を行っている
- ・以前から SNS を使ったミーティングをしていましたので、すぐにできると思いましたが、しかしながら、ミーティングとは違い、ワークショップと言う新しい取り組みには非常にハードルが高いことがわかりました
- ・集まることが不安だったので
- ・直接顔を合わせられない状況に迫られたから
- ・以前から SNS にてミーティングを行っていたので活用しました。ただしワークショップと言う括りとなるのは初めての事なので様々な障害があります
- ・仕方なく
- ・ZOOM を使用してミーティングを実施。状況によってはセミナーも ZOOM 開催になる可能性がある。ZOOM を選択したのは、手軽に導入できるため。初期費用もかからない。すでに利用しているメンバーも複数名いて、導入が容易だった
- ・Wi-Fi 環境が利用できたのでプラットフォームでの会合を（会議室に居ないメンバーへ）中継した
- ・一部の会議をオンラインで実施
- ・いつもはギャラリーを借り、作品展を開いていたが、鑑賞者の外出を避け、密になるのを防ぐためにオンライン作品展に切り替えた

*自由記述 新たなツールの「活用をはじめた」 つづき

- ・オンラインを活用しないと意思疎通がはかれないし、事業は進めないとならないので
- ・直接人と合わなくて済むので感染リスクをゼロにできますね。それに、移動せずに家から参加できるので時間を有効活用でき、時間を見つけやすくなってつながる機会が増えました。子育てでこれまで外に出にくかった人も参加できるようになっています。外出しなくなったので家族に気を使わなくて良くなったり、外で一杯飲んだり外食しなくなったりで懐にも健康にも優しいです。これまでは「プラッツで会いましょう」から始まりテーブル予約やお互いがプラッツに行ける時間の調整。行き帰りの手間など面倒が多かったです。お互いオンラインだと楽ですね。会って話せる時間を調整しやすくなって会う機会が増えたのは最大のメリットです。会社に行かずテレワークで仕事をしていることも背景として大きいですね
- ・テレワークや外部との打ち合わせ、オンライン会議などに必要なため
- ・定期的な会合が必要だったため
- ・それがよいとウワサになったから
- ・無料で手軽にはじめられたので
- ・各家庭から参加できる、早朝から夜まで、時間を決めて参加できる
- ・高校生や大人は、環境が揃っていることや、周りの状況から実践できるとみてリモート打ち合わせを始めている。が、(団体内の)小学生、中学生はまだ利用していない
- ・Teams に詳しい会員がいる

■自由記述 新たなツールの「活用を検討している」

- ・ZOOM を使って実験をしている
- ・ZOOM を検討。まだ、会員がアプリを取り込めていないのと、ネットに対する違和感や恐れがあるように思います。実際に会いながら皆でアプリを入れて、試してという共通の作業が必要な気がしています。ZOOM 会議システムについては、個人的には、仕事や友人達との会話や、セミナー受講、講座受講などよく使っていますので、簡単で便利だと思っています
- ・ZOOM を利用してみようと思う。YouTube も検討している
- ・現在、会員の約9割は「PC」または「モバイル (スマホ、タブレット)」のどちらかを所有していますので、「ビデオ会議」の活用を検討しました
- ・コロナ感染防止のため、少人数であれば可能とのことで予定している
- ・高齢者の会員が多いため、オンラインによるコミュニケーションは難しいと考えていましたが、対象者がゼロではないので、小さな集まりからチャレンジしてみようかと考え、ツールについてヒアリングしているところです
- ・出来る内容のものは、(話を聞くなど) オンラインもこれからは活用していこうと思っているが、体験型の講座を主に考えていたので、難しい。会の存続についても検討している
- ・オンラインスポーツ講習会の構想はあります。方法はこれから考えます。
- ・自分たちの団体の活動に新たなオンラインツールが必須であると感じているから

■自由記述 新たなツールの「活用は検討していない」

- ・オンラインでは、活動や学習ができない。高齢者も多い
- ・会員は高齢者が大半で、パソコンはじめ最新の情報交換技術に疎く、動画等の利用は無理
- ・役員及び一般会員の多くが高齢者であり、オンラインツールの使用が困難
- ・共に集まって歌うという方法ですので、オンラインでは無理なので
- ・オンラインツールが使用できない会員が少なくないため
- ・一緒に作業する活動ですし、ZOOM などでは細部までわかりにくのでできないと思っています
- ・高齢者なのでツールの活用に団員が消極的
- ・会員の年齢が高いので
- ・パソコン等使用できない会員が多いため
- ・会員の大方でメールの交換が出来る程度です
- ・会員が高齢化し、パソコンやスマホを使えない人が多いのでツールの活用は困難です
- ・スタッフが高齢の為、ツールが無理でした
- ・必要ない
- ・現在のところ必要性がありません
- ・グループLINE（既存ツール）で十分
- ・個人的に使用方法等が不慣れなため
- ・年配者が多く、ITの活用は難しい。4,5月は活動を思い切って中止しましたが、一番心配したのは、フレイル（身体的機能や認知機能の低下が見られる状態）が発生するのでは…ということでした。現在のところ、そういった懸念はクリアされています。多分、テレビやビデオを見て、運動したり、散歩したりしていたのではと思います
- ・集まれないと意味が薄い、また、使える人と使えない人が出てしまう。活動の主旨は皆で集える…ですから。
- ・会員の構成年齢が高い。情報を得るツールをもっていない団員もいる。情報や活動の手段は、団員が皆公平に共有できるものとしたい
- ・一人一人、学習進度に差があって、マンツーマンにならざるを得ない場面が多く、オンラインでは活動が難しいです
- ・活動はプロジェクターにより対面で行う必要があります。高齢者にはオンライン会議は難しいようです
- ・オンラインでは、会議以外はできず、実技を伴う協議のため使用不可
- ・対面でのコミュニケーションを希望している
- ・オンライン教室も検討した。しかし料理教室には不向きであることがわかった
- ・(対面での) 打ち合わせが必要なので
- ・障がい者の居場所づくりを目的とする手前、対面での支援が必要不可欠であるから。また知的障害がある利用者に対してオンラインツールを用いるのは容易ではないから
- ・活動・連絡についてはすべて電話を基本としており、その点では新しくオンラインを取り入れる必要もなく、また年齢的に八十歳近い人と八十を超えた人が多いので無理
- ・会員平均年齢が80歳に近いのと、会員数が152名と人数が多いためオンラインによる会の運営は考えておりません
- ・オンラインでは集中力が継続しないので、テクニックが必要な技術の習得ができない

- ・オンラインでしなくなかった
- ・対象が東京全体及び日本全国のため、また環境整備が困難なため
- ・まだ、オンラインツールを活用しなければならない状況にはないことから
- ・活動を縮小している
- ・活動休止中なので
- ・オンラインツールによる講座の開催の可能性はあるが、会員の多くが PC、通信等の環境を持たない
- ・メンバーに高齢者が多いためオンラインに関するものは取り組むのが難しいですが、そのようなツールが利用できる人たちからでも始めたいとは考える
- ・団体の中で話し合ったことはありませんが、プラッツや協働まつりの取り組みを知り、オンラインを活用してできることもあるかもしれないと個人として思い始めています
- ・コロナ禍がこんなに長引くとは予想しておらず当面は様子を見ようと考えていました
- ・私達の目標は紙質にこだわりぬくもりのある手書きの冊子で皆様に、紙の本を読む楽しみを伝えたいと思います。SNS を会員が出来ずその良さを理解していません。対面による学習をしています。従って、部屋の貸し出しが禁止となれば、休会としています

(4) 新たにオンラインツールを活用している、検討していると回答した団体は、具体的な活用（予定）ツールを教えてください（自由記述）

- ・ ZOOM (24 団体)
- ・ LINE (5 団体)
- ・ Messenger / Messenger room (2 団体)
- ・ Slack (1 団体)
- ・ メール (1 団体)
- ・ Teams (1 団体)
- ・ Instagram (1 団体)
- ・ Jimdo (1 団体)

(5) その他ご意見、ご要望がありましたらお書きください

- ・都の感染予防相談センターに連絡し、グループの予防対策を評価してもらい、その旨を全員に通知し活動再開を果たした
- ・会員の方たち自身にも（感染症に対する）不安があり、参加しにくいのが現状です会員のメンバーと話し合い、今後の周りの動向を見て、安心して参加していただける日を待っての活動としたいです
- ・7月末より文化センターで使用が解除され、緊張しながらも活動ができるようになりました。しかし、感染を恐れ練習に参加しない方もおられます。家にこもっていると心も折れ、足腰が弱ってまいります。新しい目標をもって進めればと思っています
- ・11月の協働まつりを「オンライン開催」とする方向で、早期に舵をきったご決断に心から賛同します

- ・市民の方々が安心して市民活動に参加できるように、今後は分野を問わずオンライン環境の整備が必須です
- ・最小限のオンラインを、渋々やっています。が、今後もコロナが続くことも考えてもっと、使えるようにしなければいけないのかなと考えます
- ・予約済みの部屋を、コロナの動向によってキャンセルしましたが、会議室利用料の返還を含む手続きを迅速にして頂き、感謝しています
- ・フリースペースを使えないことに対する代替措置として、会議室を割引で使えるなど、密にならないでコミュニケーションをできる方法をご提案いただきたい
- ・会議室の定員を制限しているのだから、利用料もそれなりにしていただきたいです
- ・起業支援スペースの使用を考えています
- ・プラッツ5階のスペースが使用できるようになれば活用したい
- ・SNSの基礎講座に興味あります。使い方がわからないから相談をどのようにすればよいのかといった状態です
- ・本年はコロナの見通しが見つからないので全員活動を中止することに決定しています
- ・工作を主に活動していますのでどうしても密になります。コロナが収束し活動できる日を心待ちにしています
- ・コロナが落ち着かないと、安定した活動が行えないのが現状です。早く元のようにお互いが距離を取らずに活動できる日が来て欲しいです
- ・会員も高齢になり、社会状況を踏まえて3月に解散いたしました
- ・パソコンオンラインとなかなかついていけず、解散しました。一番の理由は会員が高齢化になってきたことです。お世話になりました

※自由記述の（かっこ）内は事務局が追記したものです。

※自由記述は、意図を変えない程度に誤植・語彙等を修正しています。

結果をご覧になってみなさんはどんな印象を持たれたでしょうか。

今回のヒアリングでは、メールと郵送で、返送率の大きな違いがありました。メールは16.47%、郵送は51.02%と郵送（メールアドレス登録のない団体）の返送率が圧倒的に高く、なんとか窮状を訴えたいという皆さんの思いが強く伝わってきました。

ヒアリングの内容ではメール、郵送いずれもリアルな居場所、集合場所がなくなったという嘆きが多く寄せられています。プラッツだけでなく、いつも使っていた文化センターや公会堂などがすべて使えなくなってしまったという前代未聞の状況に途方に暮れる姿があぶりだされてきます。その状況を何とかしたいという思いも手伝ってか、思いのほかオンラインを拒む反応が少なく、むしろ共生を模索する声が多くありました。これは調査を実施した時期が8月、社会全体が「コロナとの戦いは長引く」という空気を感じ始めた影響もあったと考えています。

最初は戸惑いも見られたオンラインでの市民協働まつりの開催も、丁寧な説明を続けることで多くの団体が積極的に参加を表明してくださいました。7月から開催している「超初心者のためのオンライン体験会」では、サポートを受けて嬉々としてスマホやSNSの操作を覚えていらっしゃる方の姿を度々拝見しています。いわゆるIT弱者と呼ばれるような方たちも、最初にしっかりと丁寧なサポートがあれば、どんどんツールを使いこなしていける様子を目の当たりにしています。スマホの使い方、オンラインツールの使い方に慣れておくことは、市民活動だけでなく、災害時、非常時、外出困難な時など日常生活でも大きなメリットとなります。

スピード感をもってオンラインを駆使した企画を打ち出す一方、苦手意識を持つ方々を誰一人取り残すことなく徹底的にサポートして実際に使いこなしていただくこと。プラッツでは、まずはこれを当面の目標に掲げたいと思っています。

令和2年10月1日 府中市市民活動センタープラッツ
館長 吉田 恭子

〈このヒアリング報告に関するお問い合わせは下記にお願いいたします〉

府中市市民活動センタープラッツ 担当： 田口、伊藤、神名川、吉田
Mail: info@fuchu-platz.jp TEL: 042-319-9703